どうそう

―はがきだより―

今　弘助

昨年（昭和廿七年）十月、中野区立中学校長を退職し　本年に入って、から定時制の高等学校と私立学園の高等学校に若干時の授業にたずさわっています。高校生を取扱ってみて、以前の中学校上級生とはかなりの相違が感じられますが、何よりも技倆が上に、真実な学校愛が薄れているのではないか、という感がしてなりません。口舌の徒が多くて、学徒としての青春の通ったあがいが乏しくなりません。正しく立直るものと信じてはいますが。

斉藤　美洲

内田満君たちのお世話で同窓会誌がでるのはめでたい。しかしその同窓会が開かれるころは、法は印度洋上にいることだろう。そこではるかに諸先生および卒業生諸君の御健康をお祈り申上げることにする。

金子　正義

小生、相変らず茅ヶ崎に住み、庇道一時間四十分遠々の通勤に明暮れ居候。一別以来七年、三期生諸君の動静ゆかしき限りに候。石神井は懐しく、時計工場は忘れ難く、郭公の声はなほ耳底に甦り候。病院通いは相変らず、されば諸君の健康を祈るや切に候。

星野　喬

生来蒲柳の質で冬になると風邪ばかり引いていましたが、医師の勧めで五月半ばから学校を休み静養中です。本日元気な皆さんにお目にかかれないのが残念ですが、夏休みあけ迄には全快したいと思っています。御放念下さい。

中2　神戸奎四郎

身体は至って健康で最近頃に太って参りました。石神井の諸兄とは時々出会わすことがありますが、極く稀で、大方は御無沙汰致しております。勤先（三井信託）では融資先の企業の信用調査を致して居ります。御教えを受けた諸先生が殆んど石神井を去られたことは寂しいことですが、石神井の新しい発展を望んで止みません。

高1　内藤　武昭

社会部のかけ出し記者でまだ又キ合いおスリルを味う機会もないのですが、ニュースを探していつも物欲し顔です

▼斉藤先生英国へ

斉藤美洲先生は海外御留学のため去る七月一日、神戸港を御出発、英国に向かわれた。先生は、オックスフォード大学で、英文学を研究される御予定である。

▼高木先生忍岡高

七年有余に亘って石神井の生徒に親しまれていたマ一坊こと高木四郎先生は、七月一日付をもって忍岡高校に御転任になった。

高木先生のお話

「石神井の生徒のかざり気のないのはいい。この学校の自然環境は都立高随一だ。石神井を離れて気付くことは、この学校の時間のルーズなこと。生徒の皆さんも時々母校を尋ねて後輩の面倒をみてやって下さい。」

運動会事件の経過とその問題点

高3　一　会　員

例の社会問題にまで発展した運動会事件は、会計監査委員会に提出された決算書に不正決算ありと判定されたことに端を発している。その後、中央委員、会計監査委員が領収書等多方面にわたって調査した結果に基づいて十二月十二日、十三日の生徒総会で、運動会会計に不正があったこと、体操課の先生が要求して生徒会運動会予算で運動靴を買ってもらったことが確認され、学校長に善処方を要望した、しかし学校長は先生に不正の事実なしとの態度をとり生徒側との折合がつかず年を越した。一月に入っても交渉はまとまらず、一月二十一日付の朝日新聞にこの事件が大きくとり上げられることによって、果然社会問題となった。

この報道は卒業生にも反響をきおこし、石神井出身の教育大生と、東大生が話し合った結果、自分達の在学中にもこの種の噂は耳にした。この事件はそのうっ積した結果の爆発であると見られる。在校生がこのような環境に置かれていることは心配に耐えない。又「とやかくいう生徒には個人的に話をつける」という学校長談話に見られる態度は事態を正しく解決するものとは考えられない。母校での事件が社会問題となっている以上無関心ではいられず、事件を正しく解決して今後に禍根を残さぬよう善処方を申入れに行こうと衆議一決し、卒業生間に署名運動を起し、それをまとめて二月七日に代表が学校長、若菜先生（補導課長）を訪問、同主旨を申し入れた。

その後、手崎先生を委員長とする処理委員会が学校側に出来、関係者から事情を聴取し、金銭物品上のことについては各責任者の返済と謝罪、事件中に数人の先生が正義を弾圧したことについては生徒擁護委員会（仮称）を作って生徒の身分擁護に当るということでこの事件は五ケ月ぶりに解決した。

さてこのような事件が起きたことについては先生方の教育の仕方に欠陥があったと言わねばならないであろうし、しかもこの事件に先生が加わっていることゝと、事件もみ消しのために動いた先生があると云うことは遺憾なことである。生徒の間に沸き上っている先生不信の声に対して先生方の反省がのぞまれるところであろう。次に見落してならないのは、この事件中数人かの先生が事件調査に当っている生徒を個人的に呼びつけたり、内申書を前にひろげたりしておどしつけたと云うことを生徒が訴えていることである。又に「お前のバックには赤があるのではないか」という中傷をして妨害した事実もある。又課長署の保安課からも思想関係の有無を調べに来ている。

このように生徒の純真な気持がゆがめられようとしたことに対する生徒の不満は強い。しかも善処してほしいと申し入れに行った卒業生に対してまで思想関係云々のデマが一部の先生から流され、卒業生はいたく憤激している。

こういうことは一体何を物語るのだろう、石神井のような例は他にもいくつも起っている。一時鳴りをひそめた学園内の反動的な動きがいわゆる逆コースの波に乗って今や再び頭を擡げ始めているのであり、この事実に対して厳重な警戒の眼が向けらねばならないであろう。

（9頁より続く）

同窓生の集いの日は、教師にとって一番楽しい日である。

貴重な体験

高五　一会員

昨秋、母校に於いて、総予算四万四千円で開催された運動会の決算報告が、不正であると云うことが、会計監査委員会及び中央委員会に発見されたのが事件の始りである。中央委員会調査団及び会計監査委員の十人の調査委員による徹底的な「領収書」及び多方面からの調査が開始された。云うまでもなく私達は「運動会委員会の役員が単に、このような大きな仕事にふなれのために起した事務上の手落ち」位に思っていた。ところが調査の結果、運動会の予算の金で体育課の三人の先生方が運動靴を買ってもらって使用していたことや、全く「ニセの領収書」や「水増しの領収書」等が突止められ。その他多くの不正なる事実が発見されたのであった。不正を行った方においては、不正を行ったことを認めないばかりか、又、一方においては、この事件を白紙にもどして責任をのがれるために一生懸命になる先生も出て来た。又生徒を脅したり、すかしたりして、妨害した先生もいた。更にこの事件を思想関係に結びつけて、脅迫までした先生方が数人もいたと云うことは、なさけないことである。私達は「このような事件を起した人達が、いや起さない人達も、将来社会に於いて、この事件のような不幸な出来事を身に招いてもらいたくない」と云う真情にもえて、一生懸命にこの事件の解決にあたったのであるが、このようにいたずらに紛糾したことは残念であった。と同時に、又生徒の身分が数人の先生によって侵害されたと云う事実を反省して作られることになった生徒擁護委員会が順調に成長して行くことを切に念願するものである。私は将来どの様な場合に於ても、正しいものはあくまでも正とするのは勿論のこと正しくないものを正として押し通すようなことは絶対にしてもらいたくない。正義と自由の下に、清く、明るく、のびのびと発展して行くことの出来る母校に育ててもらいたい。

昭和28年同窓会会計報告(28-6-30)

収入の部	30,004(円)
繰越金	5,667
第5回生入会金	
名簿売上代	24,235
雑収入	102
支出の部	14,475
第5回生名簿印刷ヒ	3,900
総会準備ヒ	10,260
雑	315
残 額	15,529

講堂兼体育館建設ヒ会計報告
(28年3月31日現在)

収入の部	3,266,278(円)
内訳	
PTA(全日制)	3,169,560
PTA(定時制)	45,780
同窓会	29,850
雑収入	21,088
支出の部	5,868,218
内訳	
建築ヒ	5,471,845
設計ヒ	52,825
監督料	60,000
保険料	27,594
利 息	136,414
落成式	100,000
雑 ヒ	19,540
差引繰越金	2,601,940

6月30日現在では以上の繰越額(銀行借入金)の中1/4 5万円余がこれからの負債になっています

青山時代の思い出

中一　中村　由美

昔はよかった何が何度で貰えたと云われる頃の、古い時代がかった話になって仕舞ったので高校卒業の諸兄には恐らくピンと来ないのではないかと思います。丁度石神井高校の原始時代の話とも云えます、第二次世界大戦の始まる一寸前昭和十五年の四月に、旧青山師範の跡に当時の十二中、十五中等と雑居生活を始めたのが、原始時代の十四中で、教員十四名生徒二百五十四名程のさゝやかな学校生活でしたから、校長以下一人一人の生徒に至る迄皆親切ってて居ました、こんな雑居生活である為他校とは隣り合せ、始業終業時間も全然違ひました。授業開始の合図にとの学校でも所謂おでん屋の鐘をつかうて居りましたのでハ数によって区別せねばならずハ十二中は二つづつヂャランヂャラン、本校は三つカラジカランと云うエ合でしたが体験時間も違うのでうっかり寝目を外すと隣の学校の先生にお小言を食う仕末、相手は名にし負う軍国調の厳い学校で頭の先から巻きゲートルの銀世界、参拝が終で国防色、それにランドセルと云ういでたち、門の前にはこわい顔した守衛が立って一人一人停止敬礼をしなければならず、職員室の前も同様と云う有様、まるで幼年学校か士官学校へ来た様な気がしたものです。

比方は紺の制服の着流しにランドセル、長ズボンは最初の半年程は数える程しか居なかつたものです、従って巻きゲートルは教練の時巻く丈でした。やがて夏になると開襟型の制服は一番好い目標になります。

間もなく戦斗開始、どこからともなく雪が飛んで来ますが、さっぱり眼の前が見えません。仕方がないから手当り次第に投げるもの〳〵一向敵の攻撃は衰えず斬が命中弾は増すばかり、それもその筈敵は眼を裏返して着て居たのです。こんな生活も長くは続かずやがて第二次大戦が始まり、新校舎へ移転と云う事で青山師範から現在地まで行軍しました。

青山時代も二年三ヶ月程の幕帯を閉じたという事になります。

駅を降りると直ぐはるか神宮に拝礼して登校したものですが、月に一度は全校生徒早朝登校して参拝もしたものです。ある参拝の日、街は前夜降った雪で一面の銀世界、参拝が終って代々木の練兵場へ分のワシントンハイツ〳〵で、一二回生対抗の雪合戦となり一回生は入口の方から攻撃、二回生は防戦と云う事で先に練兵場へ入って行きました、一色の中の紺の制服は一番好い目標になります。

◇お願い◇
来年度新名簿作成準備中につき、住所変更、勤務先、在学校名などを至急本会までお知らせ下さい。

金さんの牛

（動員のころ）

中3　内田　満

僕たちはむしろ喜んで動員された。勉強からの解放感に何ともいえず楽しかったのである。少年の日、勉強は人生の貴苦であった。こうして僕たちの工場生活は敗戦の日まで丁度一年続いた。工場は田無町の大日本時計（今のシチズン）。そして僕たちは一ぱしの旋盤工のつもりだった。

その頃、僕たちは時々金さんの牛車に乗って、中央線武蔵境駅まで機械や製品の運搬に行った。金さんは朝鮮人だったので戦争末期にはスパイだとか色々噂されていた。しかし金さんは面白い人だった。おまけになかなか学があった。僕に「天地無用」の意味を教えてくれたのはこの人である。

ある日、僕たちは例によって呑気に歌ったりしゃべったりしながら、魔駅まで三粁の道を金さんの牛にひかれていた。よく晴れた春の空気が甘い。秩父の山々が陽炎の中にはずんでみえる。と、突然牛車が大きくゆれて、僕たちは抛り出されんばかりに道路に転がり落ちた。すると、どうだろう。警戒のあまり地べたにへなへなと坐り込んだ僕たちの前で、親愛なる金さんの牛は、道端に休んでいた牝牛にいまたがらんばかりに躍りかゝっていたのである。金さんはまさに呵々大笑した。僕たちは呆ッ気にとられて金さんの顔と牛たちとを見較べた。やがて金さんはおもむろに牛たちを引き離した。やれやれ、僕たちは再び牛車に乗った。

「こいつ、盛りがっきやがって」

金さんはそしてまた笑った。金さんの牛は牡牛であった。

＊　＊　＊

「終戦直後のころ」

高1　宮野　礼一

敗戦は昭和二十年夏の盛り、真夏といえば思い出されるのは炎熱の陽光、況もあの頃は校庭の大半が薯畑と化していたようだけれども——戦後才一回のまいごとのような運動会も快い足踏で行われた。手と足だけを使うて素朴そのもののやっを。そう云えば室内の掃除も親から貰った手と足だけでやったような気がする。勿論竹の棒や布の端切れのような附属品はあったけれども。この「親から貰った手」ともう一つ感投詞「ギョッ」は一世を風靡した。

記念すべき昭和○年某月某日、校友会委員とか称するものが互選された。三等小使の自治委員とは異り、全く得体の知れぬ代物、これ以上はないと云ってもよい天降りである。何たることか、我が愛すべき某君も

次頁へ続く

石神井このごろ

新井　進之

昔をしのんで書くことは易い。よきにつけ悪しきにつけ、叙情的なべールに覆われるからだ。石神井のこのごろを語ることは難い。目ら放った矢がおのが身に返って来るからか、ポーズの意識過剰からか。とまれ語らざるを得ぬ。

我々にとって今の大学生生活が神秘的であるが如く、古い卒業生には今の高校生は好奇の的であろう。男女共学、単位制度、三年制いずれもこの年令で身をもって体験するに非ざれば、その真相は把握できない。仮りに小学校が四年の単位制度になったと云えばどうだろう。余程想像力に富んだ者でもついて行くのが困難であろう。

我々は日々この生活を共にしているが、年令も立場も異るのでその彼等の真情を十分に汲み　とっているとは云えない。

学力低下と言えばあゝやっぱりしなどと相づちを打ってくれるかも知れぬが、堀り下げて見るとそれは退歩とすぐに結びつけてよいかどうか怪しくなる。たゞ私の感ずるところでは、昔のような〈だたし戦争のはげしい時は除く〉心豊かな学校生活が送れない二と、話の泉式な勉強が気がかりになる。馴れることにいっぱいな一年生と受験、就職で頭のいっぱいな三年生を除くと、たった二年生という一年間が、はなと云えば言えるのである。その上社会の矛盾した姿をいやと云う程みせつけられるのだから心豊かに暮そうにも暮せない。一方話の泉式勉強とはアチーブから進遁更に浮薄な新学力考査に通ずるある心もとない一線が直感される。単位制度の安易な考え方にも不安がつきまとう。古い人は石神井の貧富の崩れつゝあることを憂える。今の人は新しい貧富を形成しつゝあると考えている。そうした危機感が切迫しているのが石神井のこのごろであろう。

ちょっと一言

高5　平島　チヨ

会社に入って一番先に学んだことソロバンの珠の動かし方？上役へのお茶の入れ方？いゝえもっと大切な一と云っても御婦人方にです〜それは〃女のゆかしさ〃です。なあんだ等とがっかりしてはいけません。何もかも近代化されようとしている今、男性に取ってはかく別の魅力だ　相です。ツメにマニキヤを唇に紅をぬるよりも　モットだ相です。考えて下さい目の前に多くの男性が居りますぞオ！〃お首をおかしげのお嬢さん何なら——チョットきいてごらんになっては————

(前頁より)××部委員として体よく運座してしまった。これも記念すべき昭和○年某月某日、××部委員の会合に赴かれ、某君もはじめて入った宿直室の片隅に膝を固くして鎮座した。将来の担員を、各々の希望を楽しく語り合う先生、上級生、級友をよそに某君は鳴かずば打れもすまい雉のように冒の悪い沈黙を、多分三時間も守らざるを得なかった。「君はどういうことをやりたいと思っていますか」「いや僕は…」彼のやりたいのは喧嘩であり、雑話であり、悪戯であったりする。何の陳述の余地があろう。これが後に△△部○○部云々の活動に

(8頁へ続く)

身辺雑記

清水　克祐

高等学校程度の英作文には、「私は英語を勉強し始めてから五年になりますが、いまだに手紙一本も満足に書けません」などという問題がよくあって、出来ない私はそんな問題にすら悩まされ、頭をかゝえ込んだものであったが、学び始めて十年目になった今現在も碌な英語を読めず書けず、話せず、誠に恥しい。そんなだらしのない、腑甲斐ない私ではあるが、英語の勉強を通して、何物かゞ心に堆積して行くのを、石神井時代も今も、感じている。思えば、新井、柴崎、斉藤、寺島おくれて高田の諸先生より教えを受けた私は幸いと云うべきである。更に幸運なことには、大学へ進んでそこで再び柴崎、斉藤両先生から御指導をいたゞく機会にめぐまれた。柴崎先生はラジオにも御出講されて御活躍されて居られる。斉藤先生は英文学を鋭意御研究される為七月六日英国に向つて御出発になられる。新井先生他諸先生は相変らず英語教育に御奮斗のことであろう。後進末輩である私などは諸先生に負けぬ様に、いやそれ以上に勉強せねばならぬ。あゝ悲願は小器晩成である。

ちょっと一言

中3　海老沢嗣郎

英国女王の戴冠式で世界中が沸きかえったようだが、吾国のジャーナリズムこの騒ぎに迎合したのはどうかと思う。君主制度への憧れを、中には持っている人も少くなかろう。再び煽り立てる下心が感じられるような気がする。人間生活の高貴な面は政治形態に於てではなく学問や芸術によって求められる筈ではないだろうか。資本主義とか社会主義とかいうよりも先ずこの地球上から君主という野蛮な制度をなくすことが必要だろう。もっともそれによって社会の予盾が解決することはないだろうが少くともも人類の自由にとって或る進歩をもたらすに違いない。当り前のことだがルイ十四世やフリードリヒ大王よりもデカルトやワーグナーの方が偉大であることを吾人はもっと認識すべきだ

中五　小塩節

私が少年時代の終りを送った石神井の丘には、大戦の最中だったけれども、実にりべらるな空気があった才一回卒業生が高等に進むのに教練単位が必修となるまでは、配属将校を拒み続けようとされた若い先生たちの、最もヒューマンなものゝ持つあの気魄を、私は忘れることができない。

（東大大学院独文科）

◇次号原稿募集◇

内容随意。字数二〇〇字以内。原稿は題時本会までお送り下さい。尚本号御一読後の御感想をどしどしお寄せ願います。皆様の御意見、御批判、御希望などを今後の編集の参考にいたしたいと思います。

君へ

海老沢　敏

此の間は失礼・随分と永い間僕達は会わなかったが君も相当変ったね。君も僕のことを大人になったと云ったがこのことは確かに自分でもよく解ることだ。このことに或は関係があるかも知れないが此の頃、俺れるいとまのなかったことを書いてみようと思う。

最近僕はやっと「若人の歌」を一段違った次元から見ることが出来るようになったと思っている。僕は此のマーラーの処女作ともいうべき歌の中に或は一つの目的というものを見出そうとしてはいなかったか。このことは僕が青春という空恐ろしい現実を余りにも神秘化しそしてその何たるやを解まえぬ愚かな少年であったことを明らかにしている。すべての苦悩を忘じ得たと若人は苦悩樹の葉蔭にまどろみ乍ら思う。疲れが彼を苦悩の直視から守っているから。その時には失はれて了った恋もまた優しい天使の姿をして現われてくるのだ。眠ざめて若人は元気一杯に旅路を続けてゆくことができると君は思うだろうか。彼をとおく旅立たせたのは唯恋と悩みであっただけなのに。――君は僕が何故こんなことを云い出したのか訝しがるにちがいない。芸術作品とは一つの完結したミクロコスモスであるという自明の理に対しての無謀な反論とでも考えることだろう。しかし此の場合僕はいさゝか違った意味で言っているのだ。彼の作品をリヒアルトミュトラウスの作品と比較してみて欲しい。前者には後者の様な作品の完結性或は独立性といったものがあるだろうか。――菩提樹のもとに眠醒めた若人はやはり以前の様に苦悩に嘆き乍ら放浪をつづける。けだし失われたものはもはや永遠に還り来ることはないからだ。このことはあのオーシンフォニーのアンダンテを聴く時にたしかめられるだろう。このあまりにも烈しく強い自己嫌悪と自己侮蔑はしかし何ものかをもたらさずに終るはずがない。そしてやがて素晴らしい回心がある。若人は若人という青春の名をかるく捨て去るのだ。恐しい危機から立直った彼はフィナーレの非常な努力をはじめる。そして「復活」にみられる、シュペヒトの所謂哲学的な音楽が形づくられたのである。そうして遥かな死に至るまでの生々しい思索、人間としての苦い、そして芸術家としての苦悩。

若人の歌には初期ロマン派の残滓がある。けれども第一シンフォニーに於ては凡てが彼自らのものとなって了っているのだ。それは何という相違であることか。マーラーの芸術家としての真の出発は此処で為されているといっても恐らく間違いではあるまい。だから此の曲こそ真の意味での処女作と僕は言いたいのだ。

君はもう解ってくれたことと思う。要するに僕達は真の意味での大人というものにならなければ不可ないのだがしかしそれは非常にむづかしいことである。とは確かだ。最後に一言附け加えたいのだが、つまり僕達二人は話の時に芸術家という謎めいた名を可成頻繁に使って来たのだがこれからはもっと此の言葉を少く使ってゆこう。技術を身に着けるということだけが芸術家の必須條件だと思っているやからを僕達はただ賊人と呼ぼう。

(6頁より) 血潮をあげた某君の体たらくである。

外は冬の夜、生憎の雪、電車は黛の宮から止った。

混乱いやむしろ暗闇、併し種は蒔かれた。そしてそれらの種は何とかして育った。あたかもこの一文の孤立難駁の中から。

レジテルの話

「罪をそうとさせている。この人がまたとび切り

メリカの民主、共和の両党。レジテルが天下を支配している。おかしな世の中ではある。

レッテルの話

中3　内田　満

男三人寄れば、話はいつか御婦人談義となる。マナイタにのるご婦人は、やはり美しくなくてはいけない。それが古今東西のオキテ。顔よりも知性とのたまう近代知性氏も、二人で散歩して恥ずかしくない程度でなければ、とつけ加える。かれらにとってご婦人は散歩にお伴するテリアと何ら変らない。顔はご婦人のレッテル。そこでご婦人は せっせと口紅をぬりたくる。散歩用に不向きと信った単顔の主は美容整形医の門前にサイ銭を投ぜざるをえぬ。とかく人間はレッテルがお好きである。レッテルにはやはり最高級と書きたいのが人情。ご婦人のお顔とレッテルとを一緒にするとは不届とお小言があるかも知れぬ。しかし、レッテルは又、婦人の面貌を意味する、と辞引にちゃんと書いてある。

× × ×

このところアメリカのマッカーシーとやらいう御にが、にがにがしくタンカを切って世界をそうとさせている。この人がまたどび切りレッテルがお好きである。この人は自分と意見のあわぬ人に否応なく赤いレッテルを貼りつけてしまう。人騒がせなご趣味である。マッカーシー夫人はうっかり夫婦喧嘩もできまいと、僕は一人で同情している。この御にがいま、またまたレッテルの大量生産を計画中という。「好ましからざる」書物貼付用の赤いレッテルである。この人の禁書リストに載っているのは、左翼系四書三万冊。何のことはない。建国二百年にしてアメリカも漸く中世を迎えたのだろう。イギリス人に言わせると、アメリカ人は十三文だそうである。

× × ×

政治家たちは、レッテル論議がお上手である。世界の水準をぬく議員手当の申しわけに、言葉のあげ足とりの技術は堂に入っている。またかと云われると恐縮だが、例の「保安隊は軍隊なりや否や」に至ってレッテル論議は最高潮。お達者なことである。おかげで川柳マニアは忙しい。しかし、政治というのが、そもそもレッテルとは水魚のまじわり。「レッテルの異なる二つの空ビン」という美名を頂戴しているのが、アメリカの民主、共和の両党。レッテルが天下を支配している。おかしな世の中ではある。

（一九五三、六、二七）

ちょっと一言

高4　田村　寿重

先日、道で石神井時代の友人から"××坊"がやめたということを聞いた。あゝあの物理……とはいったが肝心の名前が出ない。しかし綽名で呼びあった方がすぐ意志が通じるし親近感を感ずる。まことに綽名のもつ魅力は大きいといえる。

新井　廸之

卒業生もふえたので、近頃盛り場のどこへ行っても必ず「云ってよいほど誰かに会う。会うときっと長談のことばに終る。月並のことばはつまらないしさびしとて他に無し。なつかしさとはこんなもんだね。

繁田　邦海

三回ぬけの内田君から手紙が届いた。二、三行でよいから何か書いて呉れとの事。文才のない自分には全く困る注文だ。それを見越して内田君の方からも二、三行でよいとの事ゴシいが、その二三行というのが仲々の難物。「手短なものは人生の落伍者だ。確っかりせい」の時代も過ぎてしまった。自分も年をとったものだ。考えてみると教え子の又教え子、つまり教え孫ができつゝあるのだから無理もない。毎年一回は子供達が学校に集まってくる。手を洗った子供達が顔をかがやかせ寄ってくる。

（2頁へ続く）

編集室にて

同窓会の新聞を作ろうといゝ始めたのは僕である。そしてごくありきたりの成行きで、とうとういゝ出したご自分が、その仕事を背負こむハメになつた。血のめぐりの悪い話である。

もつとも新聞の話は、今度が始めてではない。二年ほど前にも林（二話）さんから提案があつたからである。しかしその時はウヤムヤに終つてしまつた。ひまがないのである。金はむろんである。

× × ×

いざ作る段になつてあちこちからご意見を拝聴した。格別のことはない。結局、海老沢君、石川君とごく知恵のないチエをしぼつた。しかも時間的余裕が全くなかつたので、執筆者の方々にはずいぶん無理な註文をした。あらためてお許しを乞う次第である。

× × ×

この新聞が今後どういうことになるのか皆目見当がつかない。悪條件ばかりなのである。或はこれが始めにして終りともなりかねない。ただやつてみようと云う人さえあれば、そんな障害はあらかた消滅する。「求編集者」

× × ×

編集者には少くとも一つのヨロコビがある。執筆者の方々から、原稿と一緒にいただく、私信である。これぱかりは何ものにもかえ難く貴しい。そういう諸先生、新友、旧友などからのお便りに「友あり、遠方より・・・」の感が深い。編集者の果報を思うのはこの時である。

× × ×

この新聞は同じ石神井の空気を吸つた人達の談話室のつもりである。昔のこと、今のこと、これからのことなどを気楽に話しあえばそれでいゝ。何か心の糧ともなるものが、きつとあるだろうから。編集者のさゝやかな願いである。

（内田　満）

× × ×

内田さんが同窓会のことで大変忙しがつていられたので、業者の宛名を書きに学校へ行つてそうこうする中に、新聞の編集の手伝もすることになつて了いました。こういつても何も根んでいる訳ではないので、近頃僕の様に学校で労仂して来て（朝から晩までのノートとりも大変なアルバイトです）一家に帰ると兄貴と芸術上の大論争をやつたり、レコードを四六時中聞く位のことしかやらない非現実的な男には、全く意外になつたので深く感謝している次第です。

どうも近頃世の中がもめすごく物騒になつて来たようです。どうも人間という動物の生存期間も永くはないようでもあります。だからと云つて僕たちはどうでもなれといつて遊んで許りいる訳にも行きません。同窓の皆さん、私たちだけでも一生懸命努めてゆきましょう

（海老沢　敏）

× × ×

私、石神井を卒業して、いつのまにかもう一年四ヶ月過ぎてしまい、こんな新聞の編集など引き受けねばならぬことになつてしまいました。原稿集めに苦労しましたが、でも出来てしまうと何となくうれしくなります。

わざわざ原稿出して下さつた方方に、御礼申し上げます。それから今後のことは、なんとかなるだろうと思います。（石川　享）

発行所
東京都練馬区関町大の四一七
東京都立石神井高等学校同窓会